

田島ルーフィング杯

令和7年度 秋季支部大会 兼 第37回東日本選抜大会 埼玉県西支部予選

公益財団法人 日本少年野球連盟 埼玉県西支部

大会要項(2025.9.7 ▶ 2025.9.21)



主催 (公財) 日本少年野球連盟東日本ブロック 埼玉県西支部

後援 報知新聞東京本社 他

協賛 田島ルーフィング株式会社

「がんばれボーイズリーグ埼玉県西支部」

創業106年の田島ルーフィング

～生活を支える防水材・床材製造の埼玉工場！

今大会で日頃の練習の成果を存分に発揮できることを期待しております。

屋根で守り、
床で支える。

TAJIMA

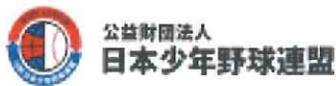
田島ルーフィング株式会社
防水生産部 部長 陶山 礼

田島ルーフィング杯

令和7年度 秋季支部大会 兼 第37回東日本選抜大会 埼玉県西支部予選

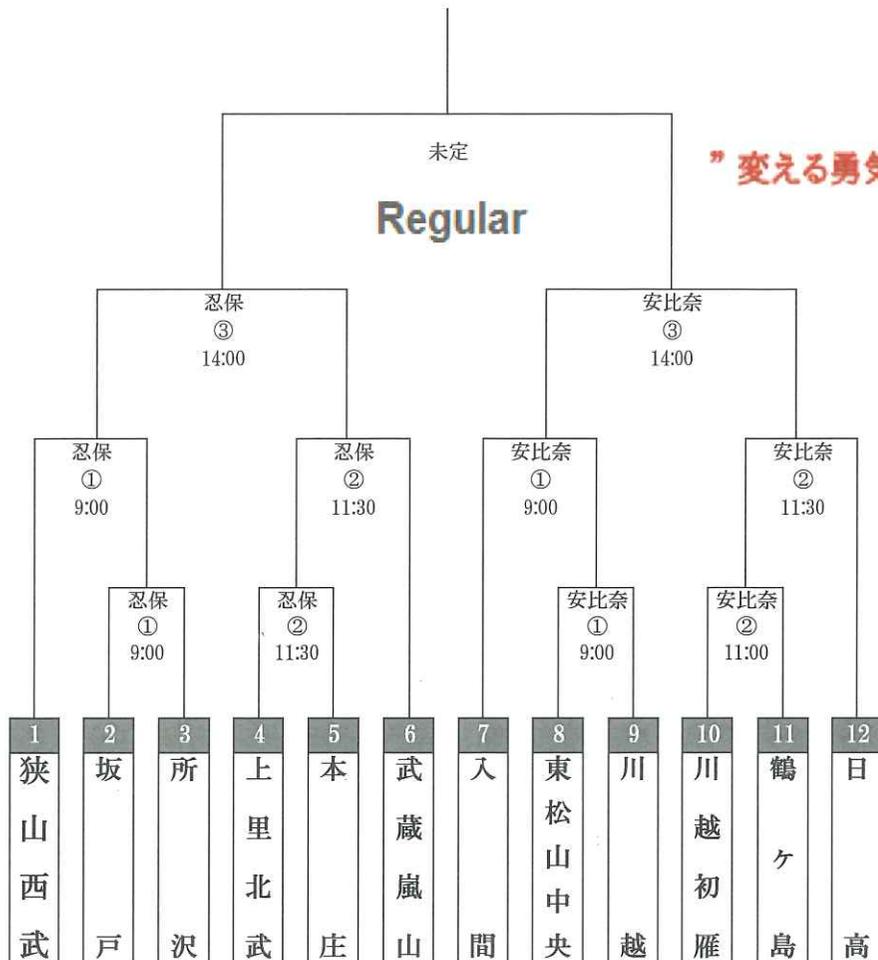
公益財団法人 日本少年野球連盟 埼玉県西支部

大会期日	2025.9.7 ▶ 2025.9.21(予備日：9.27)
主催	(公財) 日本少年野球連盟東日本ブロック 埼玉県西支部
後援	報知新聞東京本社 他
協賛	田島ルーフィング株式会社
大会会長	野崎 国男 (公財) 日本少年野球連盟 埼玉県西支部 支部長
大会委員長	松清 紀男 (公財) 日本少年野球連盟 埼玉県西支部 企画運営部長
大会運営委員長	平尾 徹 (公財) 日本少年野球連盟 埼玉県西支部 会計部長
大会運営委員	埼玉県西支部中学部チーム代表
大会運営協力	球場提供チーム役員／参加チーム父母会の皆様
大会審判部	埼玉県西支部審判部の皆様／各チーム審判員の皆様
開会式	開催は致しません
閉会式	決勝戦終了後に実施します。
出場チーム	レギュラーの部 (中学1・2年生) 12チーム ジュニアの部 (中学1年生) 7チーム
試合方式	別紙、トーナメント方式とする
試合規制	別紙、埼玉県西支部 大会規定による
登録役員 及び選手	代表・監督・コーチ・マネージャー各1名。 選手のベンチ入りは各チーム25名以内とする



優勝	ボーイズ	第37回東日本選抜大会出場 春季全国大会予選シード権獲得
準優勝	ボーイズ	第37回東日本選抜大会出場 春季全国大会予選シード権獲得

9月21日
9月14日
9月7日



「がんばれボーイズリーグ埼玉県西支部」

創業106年の田島ルーフィング

～生活を支える防水材・床材製造の埼玉工場！

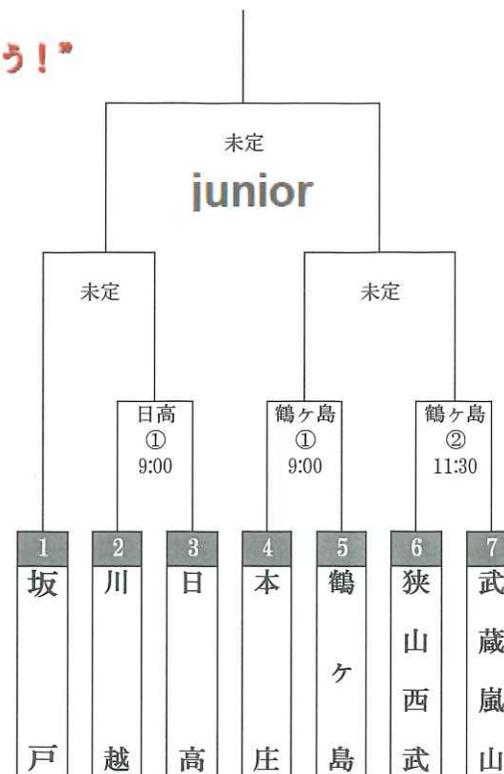
今大会で日頃の練習の成果を存分に発揮できることを期待しております。



田島ルーフィング株式会社
防水生産部 部長 陶山 礼

優勝	ボーイズ
準優勝	ボーイズ

9月21日
9月14日
9月7日



※大会球場は各チームの勝敗により変更される可能性がありますのでご了承下さい。
 ※試合当日に本部へ役員・選手登録名簿を2部提出をお願いします。
 ※審判はレギュラーは各チーム1名、ジュニアは各チーム2名の準備をお願いします。
 ※レギュラー審判は襷掛け、ジュニア審判は当該試合と致します。

公益財団法人 日本少年野球連盟 埼玉県西支部主催大会規定

1. 1チームの登録選手は、11名以上25名以内とする。
2. 出場選手は2025年6月29日現在、連盟に登録済みで選手登録名簿記載の中から各試合毎に、11名以上25名以内とする。
3. 資格審査に当っては、大会本部にて選手登録名簿とオーダー表を照合の上、資格審査証と選手本人の照合をする。
なお、審査証は当年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手25名以内および監督、コーチ、マネージャー又はスコアラーのみベンチに入ることが出来る。但し、各種登録証(監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる場合でもベンチには入れないが、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査のうえベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間に合った場合は、その時点でベンチ入りを認める。試合開始まで間に合わなかった監督、コーチについては試合中は本部席にて待機する。なお、チーム責任者が不在の場合は試合ができない。また、マネージャー又はスコアラーは同チームの帽子を着用し、スポーツウエア、トレーニングシューズ等の野球に相応しい服装とする。(Gパン、ハイヒール、サンダル等は禁止)
5. 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。
6. 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニホームを着用すること。なお、パンツはレギュラーパンツとし、ストッキングが見えるように折り返す。(ロングパンツは禁止)また、頭髪はボーイズリーグの指導者に相応しい形とする。(極度のロングヘアーや染髪は禁止)
7. 試合開始時間60分前に試合会場に到着し、直ちにオーダー表を5部&直前大会・練習試合投球状況報告書を大会本部に提出し、所定の審査を受けなければならない。
8. 審判部はオーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
10. ベンチに入る者は、試合中サングラスの着用をする場合、事前に資格審査時等に許可を得ること。
11. 試合方式など
 - ①各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間(決勝戦も2時間)を超えた場合新しいイニングには入らない。(ただし、後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - ②4回終了時(後攻チームが勝っている場合は4回表終了時)10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - ③7回終了後、同点の場合はタイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
12. 投球制限。
2022年版中学生投球制限ガイドラインを準用する。尚、一年生の投手は一年生大会に準じる。

13. (1) 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回守備2回の計4回とする。タイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない)
(2) 守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
(3) 内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。
(4) 指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30秒以内」とする。
(5) 1イニングで同一の投手に指示、伝達が2回となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置につくことが出来るが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
14. 監督、コーチおよび選手は、審判のジャッジに対して、抗議することを厳禁する。ただし、規則上の疑義申し出については、監督または問題の当事者のみが審判に説明を求めることができる。この場合「3分以内」に規制する。
15. 監督が投手にアドバイスするときは、マウンドまで行き、選手に指示が出せる。(ベンチよりグラウンドに出る時は、グラウンドコートを脱ぎ、ユニホーム姿となって、駆け足で往復すること)
16. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
17. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
18. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
19. 各チームは同色のヘルメットを1チーム7個以上、捕手の規定防具(マスク、捕用手ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ)2組を備えること。
20. ユニホーム、バット、ボール、スパイク、グラブ、サングラス等は連盟指定業者のものに限り、審査を受ける。
21. 捕手はボールを受ける時は必ずヘルメットならびに規定防具一式を試合、練習を問わず着用すること。
22. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
23. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
24. 光化学スモッグ、雷の発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
25. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。
26. 4回終了時のグラウンド整備は行わない。但し、球場責任者若しくは責任審判員が必要と認めた場合は速やかにグラウンド整備を行う。この場合タイムを止めない。
27. 登録選手以外の2名をボールボーイとして、グラウンドに入れることが出来る。但し、常時ヘルメットを着用し、試合用ユニホームは着用しない。

タイブレーク実施規制

(1) 特別規則

- (ア) 7回終了時、両チームの得点が等しい時、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (イ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ウ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (エ) この場合の代打および代走は認められる。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(ア) 投手記録

- ・ 規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・ 完全試合は認めない。
- ・ 無安打、無得点試合は認める。

(イ) 打撃成績

- ・ 規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。
ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- ・ 規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

注意事項・確認事項

- 1) 球場に到着したチームは、速やかに大会本部にその旨を報告し、その際オーダー表「5部」&直前大会・練習試合打球状況報告書を提出すること。オーダー表は「25名記名用」を使用すること。登録原簿との照合を受けた後、球審の立会のもとに攻守を決定する。二試合目以降のチームも登録原簿との照合を受けた後、球審の立会のもとに攻守を決定する。
- 2) グラウンドインから試合終了まで、チーム責任者、監督、コーチ、マネージャー又はスコアラー、登録選手以外はベンチに入ることができない。
- 3) グラウンドインしたチームは球場責任者の指示のもと、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
- 4) 試合開始前のシートノックは5分間とする。なお、守備位置につかずシートノックの補助をする登録選手はヘルメットを着用すること。
- 5) ボール回しは、一回り以内とし最終野手はその位置から投手に返球する。(試合時間が遅れている時にはボール回しをやめさせる)

- 6) 監督がタイムをとり投手に指示を与える場合、マウンド付近で行なうこと。(駆け足で)
- 7) 試合進行を意図的に遅らせる行為と疑われる選手交代には注意を与える。
- 8) 試合は大会規定で定められた時間内で行うことを目標にし、スピーディーな試合進行に努めること。
- 9) 臨時代走は攻撃側選手に不慮の事故(頭部死球)などが起き、治療等に時間がかかるような場合、投手と捕手を除いた選手のうち、そのときの打順の前の打者の順とする。
- 10) 次打者は、必ずネクスト・バッターズサークルに入り待機すること。
- 11) 手袋、リストバンド、エルボーガード、フットガードの使用を認める。打者が走者になった場合、脱着のタイムは認めない。ただし、打者走者が二塁ベースに到着した際に限り、これらの脱着のためのタイムは認める。(速やかにベースコーチがとりにいくこと)
- 12) グラウンド内のブルペンで投球練習を行うときは安全対策上、打撃監視員を必ず1名おくこと。
- 13) 交代選手の準備運動は、バッテリー及び野手各1組とする。「球場の施設に従い攻守のときに審判員の指示に従うこと」
- 14) ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
- 15) 観客席応援でメガホン等鳴り物を使用しての応援は禁止する。三脚等使用し固定してのビデオ撮影は禁止する。
- 16) 次試合の開始時間は(目安30分前後が目標)、球場責任者と責任審判員で決定する。(整備は機敏に)
- 17) 攻撃、守備のタイムの制限があるので、審判員がタイムをとったベンチと記録員に報告させ記録席において回数をチェックさせる。
- 18) 試合終了後、記録員は試合記録表を両チーム責任者または監督から確認のサインを必ずもらうこと。
- 19) 問題が発生すれば大小に拘らず、野崎支部長(090-3006-0467)に連絡すること。
- 20) 天候不順により会場変更が生じた場合は、松清大会実行委員長(090-6028-0881)に連絡すること。
- 21) 喫煙マナーについて、喫煙所以外での喫煙は認めない。その他球場の規則に従うこと。
- 22) 各球場において「置き引き、貴重品盗難、車上狙い」が発生しているので、これらの被害に遭わないよう万全を期して管理を厳重にすること。

中学生投手の投球制限ガイドライン 2022年版

中学生レギュラーの部

- ① 1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。
連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。
また3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を40球以内とし
4連投(連続する4日間)は禁止する。
- ② 大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
- ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の
打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
- ④ 連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は、登板最終日並びに
翌日は捕手としても出場できない。
- ⑤ ボークは投球数としない。
- ⑥ 雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。
- ⑦ 2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

中学生ジュニアの部（1年生大会）

1年生大会の試合での登板は以下のとおり制限する。

- ① 1日最大70球とし、連続する2日間で105球以内とする。
連続する2日間で70球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。
また3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を35球以内とし
4連投(連続する4日間)は禁止する。
- ② 大会中は1日70球以内とし、翌日投球を休めば3日目は70球の投球を可とする。
- ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の
打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
- ④ 連続する2日間で70球を超えた投手、並びに3連投した投手は、登板最終日並びに
翌日は捕手としても出場できない。
- ⑤ ボークは投球数としない。
- ⑥ 雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。

共通事項

ダブルヘッダーの場合で、2試合登板した場合は、連続2日間投球したとする。
また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。